



長島町正家
西村 知穂さん

□プロフィール

三重県志摩市出身。タレントで、ラジオパーソナリティやイベントの司会、ナレーターなどを務める。趣味は山城巡りとサッカー観戦。酒師の資格を取るほど日本酒が大好き。



▲全国山城サミット恵那大会で司会を務めた

「市街地には何でもあり、生活に困らない一方で、少し足を伸ばせば自然が豊か。毎日旅行気分です。暮らしを楽しんでいます」と恵那の魅力語るのは、フリーアナウンサーでタレントの西村知穂さん。三重県志摩市出身で、令和3年に恵那に移住してきた。きっかけは、岐阜の移住イベントの司会の仕事。移住を考えている方に向けて岐阜の魅力を伝えるうちに、自分も住みたいと思うようになった。恵那での仕事も多く、「訪れるたびに温かく迎え入れてくれるおもてなしの心がうれしかった」と振り返る。夫の転職を機にどこかに移住しようと考えていた時、真っ先に頭に浮かんだ場所が恵那だった。

移住後、「第29回全国山城サミット恵那大会」の司会・進行を務めた。司会を務めるにあたり山城について勉強しようと、岩村城や明知城など市内の山城に足を運んだ。いつしか山城の沼にハマり、今では全国各地の山城巡りを楽しむようになった。休日には、中山道大井宿に行き、岩村を訪れて佐藤一斎の教えを学んだり、五平餅や朴葉粥などの郷土料理を味わったりした。SNSで発信をすると、恵那にこんな素敵な所があるなんてと驚かされた。西村さんは、本年6月に恵那観光大使に任命された。「観光大使になると決まった時は、本当にうれしかった。任命されたからには、これまでの経験を生かし、地域に貢献できるような活動をしていきたい」と力強い口調で語る。タレントとしてのキャリアは、今年で31年。「イベントの司会だけでなく、この仕事を通して培った知識や人脈を生かして、いつか恵那の魅力が詰まったイベントをプロデュースしたい」と話す。その表情は、スポットライトが当たったように眩しかった。

恵那の魅力を伝えたい マルチに活躍する恵那観光大使



その他の話題もウェブサイトに満載



「恵那の里 次米お田植え祭」が4年ぶりに観客を入れて盛大に行われました。岩村城女太鼓の演奏と田植え唄が響く中、地元女性や小・中学生がお田植え踊りを披露。踊りの輪の中で、早乙女姿の女性たちが苗を植えていきました。9月には「次米抜き穂祭」を開催予定です。

5/13
古代ロマンあふれる
次米お田植え祭



ポーランドのフォークダンスチーム「イステブナ」によるフォークダンス公演があり、弦楽器の演奏に合わせた軽快な踊りが披露されました。公演中には、小中学生や参加した市民らが団員と手を取り合って踊る場面もあり、会場は楽しい雰囲気になりました。

5/10
ポーランドの伝統的なダンス
で観客を魅了



2023 健康フェスタ in えなが開催され、スポーツ体験や野菜不足などをチェックする健康コーナー、福祉に関するブースが設置されました。11月に開催予定の全国発酵食品サミット in えなのプレイベントとして「お酢と健康」をテーマに、ミニセミナーも行われました。

6/4
健康寿命日本一を目指して
健康フェスタを開催



恵那高等学校の生徒が、探求授業でオリジナルからすみ「ぶちえある」を考案。恵那川上屋と共同開発したと報告に訪れました。一口サイズで、ベーコンこしょう味や抹茶味などの4種類。考案者の一人、萩優奈さんは「ぶちえあるが100年後も残ってほしい」と話しました。

5/16
恵那高校生が新感覚からすみ
「ぶちえある」を考案



県が世界レベルの認知を目指す観光プログラム「NEXT GIFU HERITAGE ~岐阜未来遺産~」に「恵那岩村の山城・城下町と農村景観めぐり」が認定されました。今後は、県の支援を受けて世界への発信と更なる観光客の受け入れ環境を整備していきます。

6/12
岩村の山城や城下町、農村景観が岐阜未来遺産に認定



各校から推薦された10人が思いを発表する市少年の主張大会で、明智中学校3年生の伊藤百音さんが最優秀賞を受賞。「見て、知って、広めて、引き継いで」と題し、伝統芸能を地域の財産として継承していきたいと語りました。伊藤さんは、東濃地区の選考会に推薦されます。

6/10
中学生が思いを語る
第19回市少年の主張大会